

第 32 回 SPring-8 選定委員会議事概要

1 日 時：2020 年 9 月 24 日（木）10：00～11：30

2 場 所：TV（Web）会議

3 出席者：[委 員] 佐々木聡（委員長）、内海渉、岸本浩通、木村昭夫、島川祐一、
妹尾与志木、竹田美和、月原富武、藤森淳、藤原明比古、
村上洋一、山縣ゆり子
[JASRI] 雨宮慶幸、田中良太郎、山口章、坂田修身、木下豊彦、熊坂崇、
木村滋、為則雄祐
[オブザーバー：文部科学省] 萩谷遥平
[オブザーバー：理化学研究所] 伊藤博幸
[事務局他] 久保田康成、坂川琢磨

（以上、敬称略）

4 配布資料：

資料選 32-1 : 委員名簿

資料選 32-2 : 第 30 回 SPring-8 選定委員会議事概要

資料選 32-3 : 第 31 回 SPring-8 選定委員会議事概要

資料選 32-4 : 2021A 期 SPring-8 利用研究課題の募集および選定について

資料選 32-5 : 専用施設の評価・審査結果について

資料選 32-6 : 2020A 期 SPring-8 利用研究課題の追加募集の審査結果等について
（2020A 期 SPring-8 利用研究課題の追加募集の審査結果リスト）

資料選 32-7 : 成果の発表等状況について

資料選 32-8 : JASRI のビームタイム利用（2019B 期）について

5 議 事：

1) 開会

開会にあたり、JASRI 雨宮理事長より以下の挨拶があった。

前々回の第 30 回委員会は 2 月開催で、新型コロナウイルスの影響が出る直前であったので東京で開催することが出来た。その後のコロナ禍で、5 月に開催した第 31 回委員会はメール開催にて、この緊急時の 2020A 期の課題の取り扱い等をご審議いただいた。本日の委員会では、2021A 期の募集内容や専用施設審査委員会の審査結果の審議等を予定している。まだこの新型コロナウイルス感染拡大が終息していない中での変則的な開催ではあるが、文科省からも萩谷室長補佐にご出席いただいております。佐々木委員長のもとで議事を進めていただき、このような状況下でも、施設の共用がうまく進むよう有効な情報共有と委員の皆様からのご意見をいただきたい。

次に、文部科学省量子研究推進室の萩谷室長補佐より、以下の挨拶があった。

本年初めに新型コロナウイルス感染症の感染拡大により SPring-8/SACLA においても来所が制限され、一般利用が停止されるなど数多くのユーザーに影響が出ている。利用が再開された後も、ユーザー側の施設への来所がままならないケースもあると聞いており、今後しばらくは、変則的なスケジュールが続くと思われるが、利用者の皆様の混乱を最小限に留める仕組み作りをお願いしたい。最先端の研究施設の利用が停止すると、産学官それぞれの研究開発・イノベーション創出が遅延し、日本全体としても大きな損失となる。政府としては、感染症が蔓延する中でも、研究開発のサイクルを持続できるよう、研究活動の自動化、遠隔化を含むデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進を目指しており、予算も含めて様々な施策を検討している。文部科学省としてもユーザーにとって使い易い環境の整備について、量子ビーム利用推進小委員会等の議論を通して引き続き検討していきたいと考えている。SPring-8 においては、日本における大型施設の中核拠点として、ポストコロナ時代における実験の自動化、遠隔化への取組を積極的に進めていただきたい。文部科学省としても最大限の支援をしていきたいと考えている。また、このようなコロナ禍においても最先端の研究開発を持続していただき、優れた研究成果を創出していただくことを期待している。

2) 前回議事概要の確認

委員長より、前回第30回およびメール審議で開催した第31回SPring-8選定委員会の議事概要案について、意見等があれば本会議中にコメントをいただきたいとの発言があった。その後、特に意見はなかったことから配布資料の概要で確定された。

3) 審議事項

(1) 2021A期SPring-8利用研究課題の募集および選定について

木下利用推進部長から資料選32-4により2021A期(2021年度前期)のSPring-8利用研究課題の募集内容と選定基準・審査方法等について説明があった。

また、2021A期の課題募集における海外ユーザー課題の取扱について、以下の内容を周知することについて説明があった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、入国制限措置等が継続されていることを鑑み、特に海外ユーザーの採択課題でキャンセルがでる可能性があることから、補欠課題を設定することと、海外機関ユーザーからの課題申請に国内の共同研究者を研究グループとして参加させることを推奨している。なお、このようなケースは、2020A期の後半課題についても起こり得るので、上記と同様の対応を行いたい。

質問：2020A期後半課題の補欠対象が追加募集課題の中からと説明があったが、当初課題審査時に不採択となった課題も対象にならないのか。

回答：ご指摘の内容は理解しているが、公募時期が異なる課題を比較することはシステムの的にも困難であり、重複申請している課題もある。今回はそれらを整理する時間的余裕もないので、追加募集課題の中から選定することとしたい。

質問：キャンセルとなった課題は、次回の利用期への持ち越しや、再度審査の対象とすることはあるのか。

回答：2020A期課題は下期に延期する措置を取ったが、これを2021A期に持ち越すことはない。再度課題申請していただく必要がある。前回の評点を引き継ぐこともない。

質問：長期利用課題とパートナーユーザーの募集をB期に移すとのことだが、今後の募集もすべてB期での募集となるのか。その場合、大学では困ることはないのか。

回答：一度B期に変更した後は、1年ごとの募集となるので、次もB期募集となる。JASRI内でも競争的資金の実施期間や学生への教育計画など、さまざまな意見があったが、A期、B期どちらの時期からの開始でも一長一短がある。パートナーユーザーについては特に問題ないが、長期課題については、上記のような意見も考えられるが、長期で採択されるユーザーは実力があるので、必要であれば一般課題でも応募いただけると期待している。

まとめ：2021A期(2021年度前期)利用研究課題の募集および選定について、一部変更を含み原案どおり承認することとした。海外ユーザー課題への対応についても原案どおり承認された。

(2) 専用施設の評価・審査結果について

村上委員(専用施設審査委員会委員長)から資料選32-5をもとに、2020年7月28日に実施したレーザー電子光ビームライン・レーザー電子光IIビームライン(BL33LEP・31LEP)の利用状況等評価、延長計画審査、および次期計画の審査結果について説明があった。BL33LEPについては延長を認めず「中止・撤去」を勧告することになった。BL31LEPについては延長計画を「承認」し、6年の契約期間と3年後の中間評価を勧告することになった。また、契約期間満了で施設利用が終了した、先端触媒構造反応リアルタイム計測ビームライン(BL36XU)の事後評価の結果について説明があった。

補足：BL36XUについては、移管により2020A期より理研ビームラインとして運用されている。そのビームタイムの5%程度が共用枠で運用されることから、追加募集を開始したとの補足説明があった。

まとめ：上記、専用施設 BL33LEP・31LEP の利用状況等評価と延長計画および次期計画の審査結果について、ならびに BL36XU の事後評価結果について、原案どおり承認することとした。

4) 報告事項

(1) 2020A 期 SPring-8 利用研究課題の追加募集の審査結果等について

木下利用推進部長から資料選 32-6 に基づいて概要説明があり、379 件の応募のうち、186 課題が採択された。上期からの延期課題があり配分できるビームタイムが多くなかったことから、採択率は 49%、シフト配分率は 44%であったと報告があった。

続いて PRC 報告として、藤原委員 (SPring-8 利用研究課題審査委員会 (PRC) 委員長) より、募集と審査のスケジュール、今回の審査結果、分科会の主な意見等について説明があった。

質問：大学院生課題の採択率が下がっていると思うが、この審査結果から、学位が関係する実験等の影響について何か考慮していることはあるのか。

回答：ご指摘の内容は理解しているが、大学院生課題に限らずコロナ禍の影響で実験が出来ない状況はすべて同じで、大学自体のカリキュラムや研究にも影響は出ている。PRC としては、現状では、各分科で個別に判断することはあっても、制度として一般課題と比較して特に大学院生課題を優遇するような審査はしていない。

意見：日本結晶学会からは、JASRI や理研宛てに、この新型コロナウイルスの影響で特に大学院生に対する配慮をして欲しい旨の要望が出されている。JASRI としてはこのような背景を考慮し、次回 2021A 期の審査では、採択のボーダーラインにある課題について、運用面で大学院生課題についての配慮を検討したいと考えている。

(2) 成果の発表等状況について

木下利用推進部長から資料選 32-7 により 7 月に開催した第 18 回 SPring-8/SACLA 成果審査委員会の議事について報告があった。成果公開状況、課題実施から 10 年以上経過した成果公開期限切れ課題についての取扱い (制度見直し)、成果集の J-STAGE への移行、早期公開制度を廃止して原則、毎月発行に切り換える事等について報告された。

なお、前回本委員会で意見のあった蛋白質構造データバンク PDB (Protein Data Bank) を認定成果とするかについては、協議の結果を踏まえ、これまで通りの扱いとすることが説明された。

(3) JASRI のビームタイム利用について

木下利用推進部長から資料選 32-8 により、2019B 期における JASRI のビームタイム利用実績の説明があった。また、放射光共用施設の延べ利用時間に対する割合が 11%であったことが報告された。

5) その他

なし

6) 閉 会

以 上